

建築予定地の概要

南北 4m 幅の道路に接した奥行き 25.96m 幅 8.95m

232.34 m² 約 70 坪の土地

土地の中央に西側壁面より約 2m の場所に井戸 (図 1)

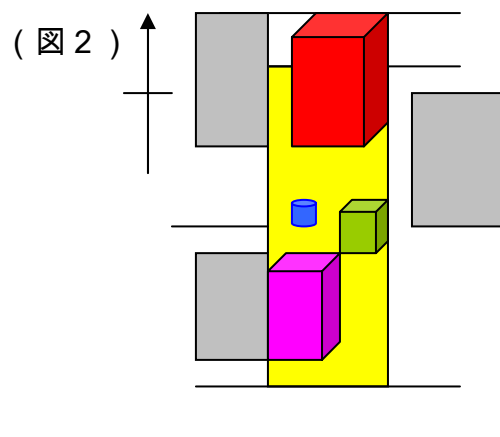
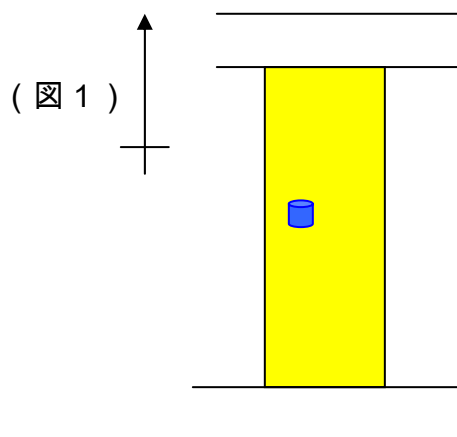
現在の利用状況 (図 2)

赤) 木造 2 階建て住居 (築 4 0 年)

うす緑) コンクリート製増設浴室

紫) プレハブ造り 1 階建て事務所

グレー) 隣家



希望設計例 (図 3)

1階部分を渡り廊下でつないだ2世帯住宅

(図 3)

緑) 木造1階建て住居

オレンジ) 屋根付き渡り廊下

ブルー) 木造2階建て事務所兼住居

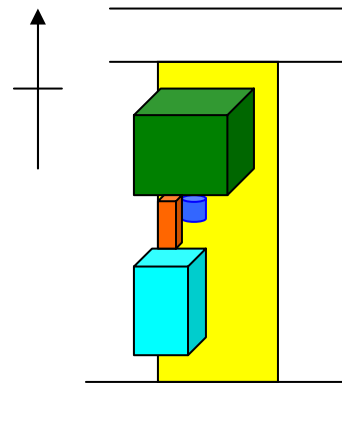
※ 将来的には廊下の撤去によって

完全独立型が可能になる

(土地・建物の分筆)

建築・設計に関する共通事項

外観などは基本的には日本家屋風であるが瓦屋根や真壁づくりなどの和風住宅である必要はない。内装については化学薬品を含まない素材の白漆喰等が望ましいが (高齢者である母親のアレルギー性呼吸疾患対策のため) 同等の対応製品であれば良い。



特注建材や別規格を使わない、量産品や共通規格のシンプルかつローコストの住宅であり建築後のランニングコストが低く数年毎の家屋修復等のメンテナンスが不要であること。

高齢者、障害者対策としてのバリアフリー仕様

将来寝たきりでも生活できる環境作りと機能があれば望ましい

熊本地方特有の気候風土に対応していること

(九州地方で最も夏冬の温度差が大きい、夏は最も暑く、冬は最も寒い)

熊本特有の夏の夕方における高温多湿対策、日本最多の連続真夏日、肥後の夕凧、冬場の著しい低温対策

集中豪雨による水害や冠水、土砂崩れによる被害、高潮による被害の可能性は全く無いが台風、地震による将来の被害の可能性は考えられる。

特に近年被害が拡大傾向にある九州地方台風上陸による南西方向から西方向にかけての強風対策は必要である。

また地震対策としてコンクリートブロックに代わる生け垣や板塀等

地震時の室内の散乱を防ぐ作り付けの収納スペースや家具

自然（エコ）エネルギーの積極利用

再生可能なエネルギー等（井戸水を太陽光発電によってくみ上げ太陽熱温水器の利用によってお湯として使う事など常時も非常時も有効）

薪ストーブによる石油にかわる冬場の補助暖房など

採光を最大限に利用することによって電気照明や冬場の暖房等の節約になる

北側木造 1 階建て住居について

必要なスペース、備品等、

（バリアフリー仕様、フローリング、高断熱、二重サッシ等）

広縁のある和室（掘りこたつ、仏壇、床）、ダイニング、70 代後半女性寝室

30 代後半女性寝室、各納戸、浴室、洗面スペース、トイレ等

特に玄関周り、トイレ、浴室等は足腰の弱い高齢者向けの設備が望ましい。

駐車スペース普通乗用車 2 台分

南側木造 2 階建て事務所兼用住居について

必要なスペース、備品等

(1階2階共通仕様 バリアフリー仕様、フローリング床、高断熱、二重サッシ等)

1階部分事務所に必要なもの

書庫、作業机、事務机、応接用椅子2脚(作業椅子と兼用)PC部品保管庫、

工具等保管庫、事務用品保管庫、トイレ(来客用)PC10台分の電源並びに

周辺機器用コンセント(現在30カ所使用中)

事務所玄関ドア(木製90cm)、靴箱、来客用含め駐車スペース乗用車3台分

その他 事務所の安全性と防犯性のため鍵のかかる収納庫

接客のしやすい対面性も必要であるが同時に情報保護の為にセキュリティーも必要

2階住居部分に必要なもの

バリアフリー仕様階段、40台後半男性寝室、キッチン、バス、トイレ、

クローゼット等収納スペース、物干スペース

一人暮らし用のため特に広いスペースは必要としない。最小限度の設備で可。

その他

井戸についてはコンクリート製の土台の上に電動ポンプを設置して利用しているが（現在は軒下になる）改築に伴い井戸を覆う木造の雨よけの屋根が必要

駐車スペースなどはコンクリートで塗りつぶしてしまうのではなくコンクリート部分は最小限度にて芝生等を植えて土の部分を残したい。